

# だっこするよ

平成28年11月

社会福祉法人茂原高師保育園

北区立赤羽台保育園

〒115-0053 北区赤羽台1-4-11-105

TEL 3900-0189 FAX 3907-8690

園長 奥戸 昌子

## 天高く こどもたち 肥ゆる秋

朝夕と昼間の寒暖の差が大きくなってきました。

公園の木々たちも色づき、一段と秋の深まりを感じます。



散歩に心地良い季節、乳児さんも散歩大好き、近隣の公園へ出かけるといろんな秋のお土産を持って帰ってきてくれます。幼児組は、遠出へどんどん歩くようになりました。荒川の土手を走り、草の上で寝転び、大地を蹴って走り、ペットショップや図書館へ出かけて、地域をどんどん歩いて楽しんでいます。地域＝地球が丸ごと遊び場です。秋の自然を感じながら、安全に気をつけて基礎運動である「歩く」を増やしていきたいと思います。「歩育」です。クラスの仲間で歩ききる満足感、太陽を浴びて、心地良い疲労、お腹を空かせて帰ってきます。給食や午睡にもとても良いリズムです。私たちは哺乳類です。天高く、空澄み渡り、食欲も増して、こどもたち 心も身体も肥ゆる秋です。

毎年、白梅大学の子ども学講座へ通っています。今年のテーマは、「こどもの最善の利益を問う」早稲田大学大学院の増山教授の「こどもの発達における遊び・文化・ゆとり」の講演でした。こどもの権利条約の31条「こどもの文化権 休息及び余暇についての児童の権利並びに、児童がその年齢に適した遊び及びレクリエーションの活動を行い並びに文化的な生活及び芸術に自由に参加する権利を認める」を取り上げられて、日本のこどもたちがストレスにさらされている。ゆとり教育の批判から学校教育も、放課後生活も全て学習プログラム化が進み、全て競争的活動に向かっている。日本のこどもの幸福感の低さ、自分は生まれて来なければと思う、自尊心を持ってない、孤独感の高さ、自分は自分でいいんだという人間の核となる部分が育ちにくいのではないか。ではどうしたら…いいのか。こどもの主食としての「あそび・遊び」が必要で、「こどもたちには、おとなによって決定・管理されない時間といかなる要求も受けない時間＝こどもが望むのであれば基本的には何もしない時間を持つ権利がある。」とこども期を保障して欲しいと語られました。

こどもの「遊び」は休息権・余暇権の保証が前提で実現するもので、私たち大人は、こどもが何かしていることに価値を求めてしまいます。価値をもとめない時間の保障、のんびり、ゆったりする権利、未来に向かって面白いこと楽しいことに没頭できるそんな経験がこどもも大人も日常の中で創っていけたらこどもたちの幸福度も変わると思いました。

200人の保育園で何ができるだろうか？一人ひとりのこどもたちを園の主体者にしていくこと、生活を営む側にしていくには、指示やルールを見直し、こども自身に考えさせる時間を渡す…自由に遊んで、自分で選び、自分で決めて、行動できる時間を創っていくこと休息と余暇のゆとりの時間をこどもたちに委ねることだと思います。その評価されない時間こそがこども自身が自分に向き合える時間を生み出し、自分の核を作っていくと感じました。

心の豊かさを育むことは目に見えないものですが、こどもたちの体温を一度でもあげられるような声掛けをしていきたい。大人側のゆとりや広い視野、想像力、保育室の環境 遊びの道具や材料や空間、仲間 課題が沢山見えました。あなたは大事な宝で、あなたが育つ権利をもっと学び応援していきたいと思います。

6月職員会で「こどもの権利とは？」で自由に話し合いをしました。それぞれにいろんな意見が出ました。職員間で共通理解をして人生の土台を作るのは私たちだとの気概をもって今日の保育に臨みたいと思っています。